

『ニューエクスプレス ビルマ語』修正一覧 (全9ページ)

2018年4月13日改訂版

『ニューエクスプレス ビルマ語』は、おかげさまで版を重ねていますが、第1刷(2015年7月20日発行)には相当な数の打ち込みミスがありました。また、この本を使って授業をしてみたところ、説明の変更や追加が必要だと思われる部分がたくさん出てきてしまいました。そこで、第1刷、第2刷、第3刷におきましては、かなりの修正を行っています。2017年3月30日発行の第4刷以降は修正を行っておりません。したがって、第1刷、第2刷、第3刷をお買い求めいただきました読者の皆様には、たいへん申しわけないのですが、この修正一覧をご覧ください、学習の際の参考にしていただきたく思う次第です。修正した部分を赤で示しています。読者の皆様方にはご不便をおかけしまして、たいへん申しわけございません。

筆者

目次

1. 第1刷にほどこした修正 (すなわち、第2刷では直っています) p.1
2. 第2刷にほどこした修正 (すなわち、第3刷では直っています) p.4
3. 第3刷にほどこした修正 (すなわち、第4刷では直っています) p.6

1. 第1刷にほどこした修正 (すなわち、第2刷では直っています)

p. 014、「1. 声調」の前の段落の後半 (※より正確な言い方に訂正)

<修正前>

いっぽうのハイフンは、ひとつの単語の中に切れ目があって (いわゆる形態素境界です)、それを特に明示したいときに用います。たとえば、動詞 နီ ni 「赤い」 に名詞化接頭辞 အာ ၊ā がついたとき、အာနီ ၊ā-ni 「赤色」のように書きます。言いかえると、ある単位とある単位がつながったとき、そのつなぎ目が単語の外側にあれば '=' で示し、単語の内側にあれば '-'' で示すということになります。これにより、文中の要素間の結びつきが分かりやすくなるので、便利だと思います。ただ、学習においてはあまり気にする必要はありません。

<修正後>

いっぽうのハイフンは、ひとつの単語の中に切れ目があって (いわゆる形態素境界です)、それを説明上特に明示したいときに用います。たとえば、動詞 နီ ni 「赤い」 に名詞化接頭辞 အာ ၊ā がついたとき、အာနီ ၊ā-ni 「赤色」のように書くことがあります (?āni とすることもあります)。言いかえると、ある単位とある単位がつながったとき、そのつなぎ目が単語の外側にあれば '=' で示し、単語の内側にあってそれを明示したいとき '-' で示します。これにより、文中の要素間の結びつきが分かりやすくなります。ただ、学習においては無視してもかまいません。

p. 023、「8. イントネーション」図の下の段落（※分かりやすいよう、赤で示した部分を追加）

<修正前>

最後の dè は低平調ですから、低く平らに発音すればいいわけです。しかし、山なりに発音されることがあります。

<修正後>

最後の dè は低平調ですから、低く平らに発音すればいいわけです。しかし、**上に図示したように**山なりに発音されることがあります。

p. 029、表 3 の下に掲げた語例のところ（※発音の実態に即し、赤で示した行を追加）

<修正前>

oŋ: wún 「腹」 ɔɔoŋ táwún 「責任」 ɔnŋo wɛ?wún 「熊」

<修正後>

oŋ: wún 「腹」 ɔɔoŋ táwún 「責任」 ɔnŋo wɛ?wún 「熊」

なお、oŋ: 「腹」は wán や wín と発音する人もいます。

p. 030、表 4 の下（※発音の実態に即し、赤で示した行を追加）

<修正前>

oŋ wu? 「着る」 ɔŋ wú? 「うづくまる」

<修正後>

oŋ wu? 「着る」 (wi? と発音する人もいる) ɔŋ wu? 「うづくまる」

p. 039、「単語」のリスト（※斜線ではなく括弧を使うべき）

<修正前>

ə mâ/ma? 女性に使う敬称のひとつ

<修正後>

ə mâ (ma?) 女性に使う敬称のひとつ

p. 045、「単語」のリスト（※カレーを指す場合もあるため、赤で示した訳語を追加）

<修正前>

oŋ: hín おかず

<修正後>

oŋ: hín おかず、**カレー**

p. 073、コラム「数詞+助数詞」の中、中段あたりの例 (※声調符号を削除)

<修正前>

ဝတ်ကျိဝ် ḍā-jà? 「1 チャット」

<修正後>

ဝတ်ကျိဝ် ḍā-ja? 「1 チャット」

p. 086、「1. ~なので/~だから」と「2. ~だが/~なのに」に挙げた例文 (※発音表記を修正)

<修正前>

bai? nà=lô mā-twá=bú 腹が痛いので行かない

mó mā=ywà=lô twá=dè 雨が降らなかったので行った

mó ywà=bèmê twá=dè 雨が降ったけれど行った

mó mā-ywà=bèmê mā-twá=bú 雨が降らなかったが行かなかった

<修正後>

bai? nà=lô mā-twá=bú 腹が痛いので行かない

mó mā-ywà=lô twá=dè 雨が降らなかったので行った

mó ywà=bèmê twá=dè 雨が降ったけれど行った

mó mā-ywà=bèmê mā-twá=bú 雨が降らなかったが行かなかった

p. 101、「表現力アップ」の最初の例文 (※発音の実態に合わせ、赤で示した部分を追加)

<修正前>

twê=yâ=dà wún t̃à=bà=dè

<修正後>

twê=yâ=dà wún(wán, wín) t̃à=bà=dè

p. 117、「~してから…経つ」のところ (※声調表記を修正)

<修正前>

経過時間 ခိဝ် ခိ=bi

<修正後>

経過時間 ခိဝ် ခိ=bi

p. 142、「ヒント！」に挙げた最初の例 (※赤で示した部分を追加)

<修正前>

ဒီဝါအုပ်တွေ sa?ou?=twè

<修正後>

ဒီဝါအုပ်တွေ di sa?ou?=twè

p. 150、下から 2 行目 (※正確な意味を理解してもらうため、赤で示した部分を追加)

<修正前>

လွယ် lwè ~しやすい (本動詞としての意味は「簡単な」)

<修正後>

လွယ် lwè ~しやすい [「~の状態になりがちな」の意] (本動詞としての意味は「簡単な」)

p. 157、右列

<修正前> (※赤で示した行を追加。動詞 တတ်တယ် のエントリーがなかったため)

~တည်း: thé/dé たったの~

~တတ် ta?da? (~することが) できる [能力可能]

<修正後>

~တည်း: thé/dé たったの~

တတ်တယ် ta?=tè できる、能力がある

~တတ် ta?da? (~することが) できる [能力可能]

2. 第 2 刷にほどこした修正 (すなわち、第 3 刷では直っています)

p. 041、「6. 代名詞」の最下部 (※赤で示した部分を追加。より正しい綴りを示すのがよいとの判断)

<修正前>

.....親族名称を使います。(5 課参照)

<修正後>

.....親族名称を使います。(5 課参照)

「私」を表す ကျနော် と ကျမ は、格式張った文章ではそれぞれ ကျွန်တော် および ကျွန်မ と綴るのが一般的です。

p. 087、「5. 強調の助詞 〇 pé/bé」の説明の中にある例文の発音記号 (※ダブルハイフンを追加)

<修正前>

dà khédàn bé 「これは鉛筆だよ！」

dà khédàn bà 「これは鉛筆です」

<修正後>

dà khédàn=bé 「これは鉛筆だよ！」

dà khédàn=bà 「これは鉛筆です」

p. 092、「1. A のほうが B より～だ」の最後の例文 (※声門閉鎖音を表す記号を削除)

<修正前>

dà=nê ?dà bè hà pò káun=dǎ=lé

<修正後>

dà=nê dà bè hà pò káun=dǎ=lé

p. 111、項目 7 番の見出 (※発音表記の声調符号を修正)

<修正前>

အနေနဲ့ ?ǎnè=nè 「～として」

<修正後>

အနေနဲ့ ?ǎnè=nê 「～として」

p. 125、「表現力アップ」の 6 番目と 7 番目の例文 (※正式とされる綴り字に修正)

<修正前>

■何階にありますか တယ်န့စ်ထပ်မှာရှိသလဲ။

■何分かかりますか တယ်န့စ်မိနစ်ကြာမလဲ။

<修正後>

■何階にありますか တယ်န့ထပ်မှာရှိသလဲ။

■何分かかりますか တယ်န့မိနစ်ကြာမလဲ။

p. 129、「6. တယ်သွားသွား bè tʰwá tʰwá 「どこへ行くにも」」の 1 行目～2 行目 (※語句を追加)

<修正前>

... 「いかに～しようとも」のような表す表現を作ることができます。

<修正後>

... 「いかに～しようとも」のような意味を表す表現を作ることができます。

p. 155、右列、中段 (※「～」を追加)

<修正前>

ᧄᧇᧉ ḥèjìn/zèjìn ～してもらいたい

<修正後>

～ᧄᧇᧉ ḥèjìn/zèjìn ～してもらいたい

3. 第3刷にほどこした修正 (すなわち、第4刷では直っています)

p. 018、4行目 (※発音表記の声調符号を修正)

<修正前>

ᧄᧇᧉ ḥṇá [フガー] 「借りる、貸す」

<修正後>

ᧄᧇᧉ ḥṇá [フガー] 「借りる、貸す」

p. 021、「6.」の前の段落 (※第一刷以降に判明した事実に伴って、説明を全面的に変更した)

<修正前>

なお、最近、ヤンゴンの若い世代では、tなどの歯茎音の後で、ɛʔ と aʔ の区別がなくなりつつあるようです。このため、ɛʔ が aʔ に聞こえたり、逆に aʔ が ɛʔ に聞こえたりすることがあると思います。戸惑わないよう、知っておくとよいでしょう。

<修正後>

なお、最近、ヤンゴンの若い世代では、ɛʔと aʔの区別がなくなりつつあるようです。そのような人はどちらも [æʔ] のように発音しますので、ɛʔが aʔに合流しつつあると見ることができます。人によっては、tやcなどの特定の子音の後でのみこうした合流が起きています。

p. 026、(1)に示したビルマ文字の2行目 (※字母の誤りを訂正)

<修正前>

ᧄᧇᧉ phyâ

<修正後>

ᧄᧇᧉ phyâ

p. 029、「表 3: 末子音 N で終わる音節の表し方」の最左列 (※音節末子音の発音表記の誤りを訂正)

<修正前>

in aun ain an ein oun un

<修正後>

iN auN aiN aN eiN ouN uN

p. 030、「表 4: 末子音 ? で終わる音節の表し方」の最左列 (※ハイフンを全て削除)

<修正前>

-e? -au? -ai? -i? -a? -ei? -ou? -u?

<修正後>

e? au? ai? i? a? ei? ou? u?

p. 036、「3. 疑問の助詞 ㄌㄚː lá」の説明部分 (※赤で示した部分を追加。音声のより良い理解のため)

<修正前>

ㄓㄩ̀ㄛ̀ㄌㄚːㄌㄚː ㄉㄚˋ khédàn=lá これは鉛筆ですか？

ㄗㄛ̀ㄌㄚːㄌㄚː ㄐㄛ̀ㄉㄚˋ khwé=lá それは犬ですか？

疑問文の場合、丁寧さを表す ㄌㄧ̀ pà を使わなくてもなぜかぶっきらぼうにならないため、ふつうは ㄌㄧ̀ pà を使いません。

<修正後>

ㄓㄩ̀ㄛ̀ㄌㄚːㄌㄚː ㄉㄚˋ khédàn=lá これは鉛筆ですか？

ㄗㄛ̀ㄌㄚːㄌㄚː ㄐㄛ̀ㄉㄚˋ khwé=lá それは犬ですか？

ただし、ㄌㄚː lá はゆすり音調(p.023)で発音されることがよくあります。後述する ㄌㄛ̀ lé も同様です。

疑問文の場合、丁寧さを表す ㄌㄧ̀ pà を使わなくてもなぜかぶっきらぼうにならないため、ふつうは ㄌㄧ̀ pà を使いません。

p. 053、「解答」の間 2 (※練習問題の解答が間違っていました。申しわけありません。)

<修正前>

2. 1) ㄌㄛ̀ lé 2) ㄌㄛ̀ lé 3) ㄌㄚː lá 4) ㄌㄛ̀ lé

<修正後>

2. 1) ㄌㄛ̀ lé 2) ㄌㄚː lá 3) ㄌㄚː lá 4) ㄌㄛ̀ lé

p. 067、中段の説明 (※慣用読みを示しておいたほうがよいとの判断)

<修正前>

「11～19」は、ဆယ်の後に1から9を表す数詞をつけます。ただし、このときဆယ်の声調が変わって、ဆယ့်となります。

<修正後>

「11～19」は、ဆယ်の後に1から9を表す数詞をつけます。このときဆယ်の声調が変わって、ဆယ့်shê/zêとなります。同じ綴りでshê/zêとも発音します。

p. 067、前修正事項の下の説明 (※慣用読みを示しておいたほうがよいとの判断)

<修正前>

「20, 30, ... 90」に「1の位」がつくときにもဆယ်の声調が変わってဆယ့်となります。

<修正後>

「20, 30, ... 90」に「1の位」がつくときにもဆယ်の声調が変わってဆယ့်となります。この発音もshê/zêまたはshê/zêの2通りがあります。

p. 067、下から3行目 (※発音表記部分の最後の声調符号を修正)

<修正前>

1685 တစ်ထောင့်ခြောက်ရာရှစ်ဆယ့်ငါး tǎthâunchau?yâci?shênâ

<修正後>

1685 တစ်ထောင့်ခြောက်ရာရှစ်ဆယ့်ငါး tǎthâunchau?yâci?shêná

p. 098、「3. 良く」の説明 (※赤で示した一文を追加。説明不足と感じたため)

<修正前>

ကောင်းကောင်း káungáun 「上手に」は動詞 ကောင်း 「良い」を重ねた形です。これを疊語と言います。動詞を疊語にすると副詞的に働く語ができます。

<修正後>

ကောင်းကောင်း káungáun 「上手に」は動詞 ကောင်း 「良い」を重ねた形です。これを疊語と言います。疊語の後部音節は頭子音が有声化します。動詞を疊語にすると副詞的に働く語ができます。

p. 121、最下行の単語の和訳 (※和訳をより正確なものに変更)

<修正前>

ဒီထက် di=de?(the?) これよりも

<修正後>

ဒီထက် di=de?(the?) これ以上

p. 129、最下段 (※赤で示した二文を追加。若い世代の言語実態に触れるのがよいと判断したため)

<修正前>

13 課で、動詞の疊語形が副詞的に機能することを勉強しました。たとえば ကောင်းကောင်း káungáun が「上手に」を表すといったものです。「疑問表現 + V V」の動詞は重なっているという点で疊語形と似ていますが、疊語形とは違って 2 番目の音節の頭子音が有声化しないことに注意してください。次の例を「上手に」と比べてください。

ဘယ်လောက်ကောင်းကောင်းမရဘူး။

bǎlau? káun káun mā-yâ=bú

どんなに良くてもだめです

<修正後>

13 課で、動詞の疊語形が副詞的に機能することを勉強しました。たとえば ကောင်းကောင်း káungáun が「上手に」を表すといったものです。「疑問表現 + V V」の動詞は重なっているという点で疊語形と似ていますが、疊語形とは違って 2 番目の音節の頭子音が有声化しないことに注意してください。次の例を「上手に」と比べてください。

ဘယ်လောက်ကောင်းကောင်းမရဘူး။

bǎlau? káun káun mā-yâ=bú

どんなに良くてもだめです

ただし、若い世代では動詞の疊語形で有声化が起きない話者もいます。そのような人は「上手に」を káunkáun と発音します。

p. 133、単語リスト、後から 4 つめ (※発音表記部分の最後の声調符号を修正)

<修正前>

ကိုယ့်ဟာကိုယ် kô hà kô 自分で(p.137 表現力アップ参照)

<修正後>

ကိုယ့်ဟာကိုယ် kô hà kò 自分で(p.137 表現力アップ参照)

p. 158、左列の中ほど (※和訳をより正確なものに変更)

<修正前>

ဒီထက် di=de?(the?) これよりも

<修正後>

ဒီထက် di=de?(the?) これ以上